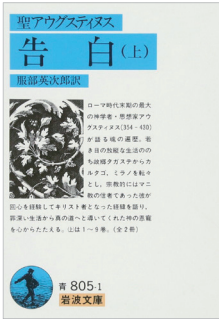




中野里晃祐助祭から  
この一冊

司牧者がリレー形式で若者たちにぜひ読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は、中野里晃祐助祭(コンベンツアル聖フランシスコ修道会、仁川教会司牧実習)が担当。



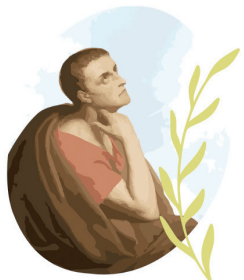
『告白(上・下)』(アウグスティヌス著、服部栄次郎訳、岩波書店、1976年、税込 上下計1914円)

「外の世界にずっと探していた 真実はいつもこの胸の中 待たせてごめん いつもありがと 会いにくいよ 一つになろう」……これは、藤井風さんの最新曲『Grace』の一節です。自信を持って言うわけではありませんが、邦楽・洋楽問わず音楽音痴の私の鈍い感覚のアンテナにも、なぜかこの最新のヒット曲を受信で

「本当の自分」探しは、青年期の特権ですが、藤井さんの場合、その「本当の自分」探しは、内なる自分の最奥で待っておられた「神様」との出会いという個人的な体験に基づいているようです。そうでなければ、およそ思いつけないような歌です。

この曲を聴いて、私が直感的に思い出したのが、今

次回は、松浦信行神父(梅田ブロック)です。



この本は、自分が限りない「愛」によって愛され、その「愛」が自身の中から泉のように湧き続けているのを確信し、「本当の自分」に出会えた一人の青年の告白録です。

子どもたちのホスチア作りの作業を見守る



右近とともに歩む会 和歌山地区学習会

歴史画「高山右近の生涯」

10月9日(日)11時半、和歌山紀北教会で福者ユスト高山右近殉教者の生きざまを学ぶ学習会が開かれた。23人が参加。高山右近が一日も早く聖人の位に上げられるよう、列聖祈願の祈りに努めたい。



出前美術館で右近の歩みを知ってもらう

信徒有志グループ「右近とともに歩む会」では、カトリック画家・村田佳代子さんの作品、歴史画『高山右近の生涯』(全10枚)のレプリカのパネルを大阪地区・神戸地区・和歌山地区用に3セット作り、要望があればこちらから出向く「出前美術館」を始めた。

会員の募集もしている。今回の講演では、この歴史画を基に、講演者の榎原宮子さん(今市教会所属)の視点から見た高山右近の生涯について語っていた。右近の高槻城主の頃の姿、利休七哲としての人の関わり、伴天連追放令時の右近、金沢での信仰生活、スペイン総督の歓迎を受けながらのマニラ到着……歴史画一枚一枚を見ながら、右近の軌跡を追った。コロナ禍で教会全体が大幅に活力を失っている中、今一度、右近の信仰と生きざまを学んだ。戦国時代に信仰を守り抜く強さや信念はどこから生まれてくるのか。今一番必要なもの——価値観の多様化する現代の中で、この信仰のあり方について

参加者の声

右近の信仰の深さを感じ入った。イエス様の教えを土台とし、生涯をささげた生き方は私たちの手本である。歴史画パネルを見て、福者の生涯を垣間見ることができた。もう一度右近に関する書籍を読み直したいと思う。

青年と子どもの錬成会

久しぶりに集まろう!



10月9日(日)8時半、布施教会で3年ぶりの錬成会が行われた。今年の錬成会は日帰りとなったが、子どもたち、青年、司祭たちが同じ空間に集まることができた。テーマは「久しぶりに集まろう!」。

リーダーの感想

空き時間には、班・子ども・青年関係なく「だるまさんが転んだ」や鬼ごっこをして思いっきり楽しんだ。錬成会が始まる前は、1日で子どもたちの仲が深まるかどうか不安だったが(実際子どもたちも初対面が多く、人見知りしていたので)、皆すぐに打ち解けたようで安心した。「錬成会」は、これからも大切にしていきたいと改めて実感できた1日だった。

来年はコロナも収まり、通常の2泊3日の錬成会を行えたらいいなと思います。参加してくれた子どもたちと一緒に準備を行い、たくさん助けってもらった青年たちと神父様方に感謝したいです。ありがとうございました。

(文) リーダー 田川優香